

# 「第6回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」 専門家向けセッション

[4日/5日]

専門家向けセッションに参加された方へ アンケート ご協力をお願い

事務局使用欄

このたびは、本シンポジウム専門家向けセッションにご参加いただき、ありがとうございます。  
今後の参考に、以下のアンケートにご協力をお願いいたします。(該当する個所に  をお付けください。)

Q1 今回参加された日

12月4日(木)

12月5日(金)

Q2 興味を抱いたセッション、ディスカッション(複数回答可)

セッション1「海外の取組状況」

セッション2「基礎科学」

セッション3「野生生物」

セッション4「曝露」

セッション5「人健康影響」

セッション6「評価基準」

ディスカッション

ポスターセッション

\*左記のように答えた理由

Q3 興味を抱いた発表(複数回答可)

セッション1「海外の取組状況」

ラグノール ベダーセン氏

エレヌ Z. フランシス氏

アンヌ グウルメロン氏

ティム メレディス氏

セッション2「基礎科学」

長濱 嘉孝氏

加藤 茂明氏

ピーター トーマス氏

三田 雅敏氏

マイケル スキナー氏

セッション3「野生生物」

堀口 敏宏氏

グレン A. フォックス氏

ルイス J. ジレット Jr.氏

ホセ V. タラゾナ氏

チャールズ R. タイラー氏

セッション4「曝露」

ムスタファ アリ モフド氏

深田 秀樹氏

トーマス H. ハッチンソン氏

鈴木 規之氏

セッション5「人健康影響」

シャナ スワン氏

リチャード A. ベッカー氏

ジョセフ G. ヴォス氏

ジェロルド J. ヘインデル氏

森 千里氏

\*上記のように答えた理由

セッション6「評価基準」

テリー ダムストラ氏

リズベス ロペス カリーロ氏

ゲルハルト ヴィネケ氏

エレヌ Z. フランシス氏

百枝 幹雄氏          ジョージ ダストン氏

森 千里氏          チャールズ R. タイラー氏

鯉淵 典之氏          有蘭 幸司氏

森田 昌敏氏          井口 泰泉氏

グレン ファンデルクラーク氏

Q4 今後どのような課題（分野）を実施してほしいですか？ できるだけ具体的にお書きください。

( )

Q5 今後どのような人に発表してほしいですか？ 所属機関(施設)名もわかる範囲でお書きください。

( )

Q6 今回のシンポジウムの運営面についてご感想をお聞かせください。

1) 会場内で気付いたこと（複数回答可）

- 騒がしかった
- 見づらかった
- 聞き取りにくかった
- 休憩時間が短かった
- 机が欲しかった
- 席が狭かった
- 記者やカメラマンの動きが気になった
- その他( )

2) 演者数について

1 ----- 2 ----- 3  
多い 適切 少ない

3) 講演時間について

1 ----- 2 ----- 3  
長い 適切 短い

4) その他工夫すべき点等ございましたらお書きください。

( )

差し支えない範囲であなたのプロフィールをお教えてください。

年齢	10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代以上	性別	男・女
職業	学生・化学物質関係業界(研究者含む)・その他の研究者 行政関係者・メディア関係者・その他( )	環境ホルモン学会	会員・非会員

ご協力ありがとうございました。

専門家向けプログラム 集計

Q1 参加日		
12月4日	12月5日	両日参加者
12	4	59
回答数(のべ):		75

Q2 興味深かったセッション(複数回答可)							
海外の取組状況	基礎科学	野生生物	曝露	人健康影響	評価基準	ディスカッション	ポスターセッション
35	43	33	19	37	29	8	12
回答数(のべ):							216

Q3 興味深かった講演 (複数回答可)				
セッション1「海外の取組状況」				
ペターセン氏	フランス氏	クラムスト氏	ルティス氏	
19	25	28	20	
回答数(のべ):				92

Q3 興味深かった講演 (複数回答可)				
セッション2「基礎科学」				
長濱氏	加藤氏	トーマス氏	三田氏	スキナー氏
33	29	21	19	23
回答数(のべ):				125

Q3 興味深かった講演 (複数回答可)				
セッション3「野生生物」				
堀口氏	フォックス氏	ジレット氏	タゾナ氏	タイラ氏
18	17	25	8	26
回答数(のべ):				94

Q3 興味深かった講演 (複数回答可)				
セッション4「曝露」				
ムスタファ氏	深田氏	ルッチソツ氏(米田氏)	鈴木氏	
12	19	7	6	
回答数(のべ):				44

Q3 興味深かった講演 (複数回答可)				
セッション5「人健康影響」				
スワン氏	ヘッカー氏	クオス氏	ヘンデル氏	森氏
24	21	16	21	33
回答数(のべ):				115

Q3 興味深かった講演 (複数回答可)												
セッション6「評価基準」												
タムスト氏	ロバート氏	クイネ	フランス氏	百枝氏	森	鯉淵氏	森田氏	ファンテリカク氏	タストン氏	タイラ氏	有園氏	井口氏
14	7	17	6	9	6	10	17	14	7	10	7	11
回答数(のべ):											135	

Q6-1) 会場内で気になったこと(複数回答可)							
騒がしかった	見づらかった	聞き取りにかった	休憩時間が短かった	机が欲しかった	席が狭かった	記者やかまの動き	その他
1	2	2	12	8	8	2	15
回答数(のべ):							50

Q6-2) 演者数について				Q6-3) 講演時間について					
多い	適切	少ない	未記入	長い	適切	短い	未記入		
20	48	1	7	10	53	3	10		
回答数:				76	回答数:				76

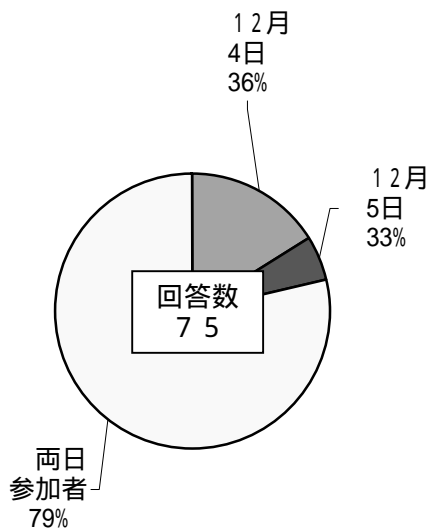
【プロフィール】

年齢								性別				
10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	未記入	男	女	未記入		
0	12	17	12	16	10	2	7	54	13	9		
回答数:								76	回答数:			76

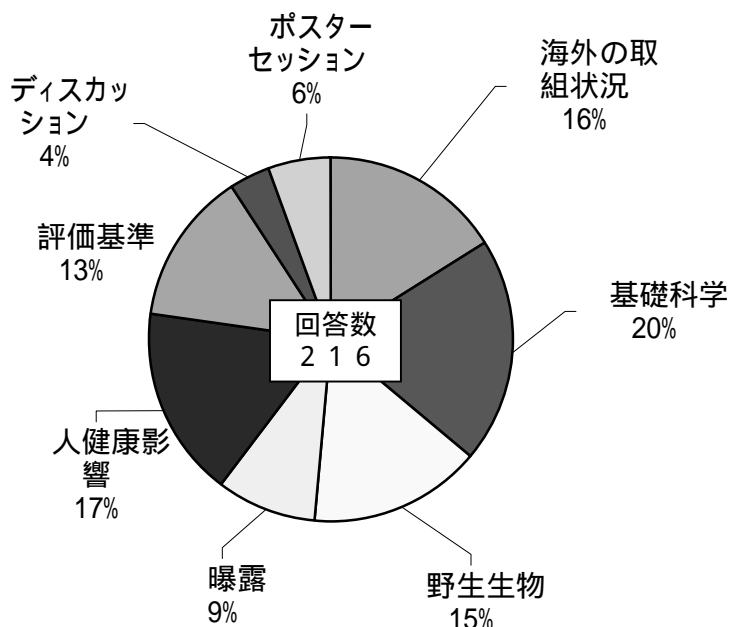
職業							学会				
学生	学物質関係者	その他の研究者	行政関係者	メディア関係者	その他	未記入	会員	非会員	未記入		
7	29	19	9	0	5	7	35	32	9		
回答数:							76	回答数:			76

アンケート総数 76

Q1参加日

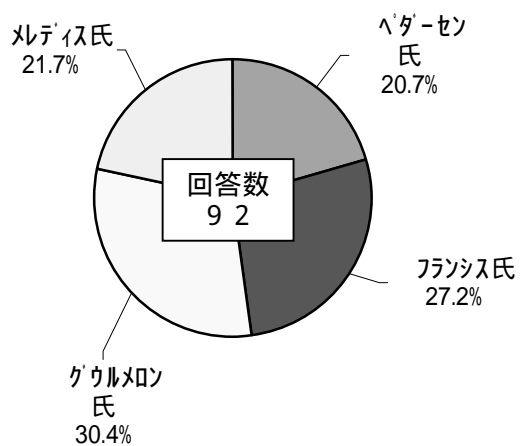


Q2 興味深かったセッション

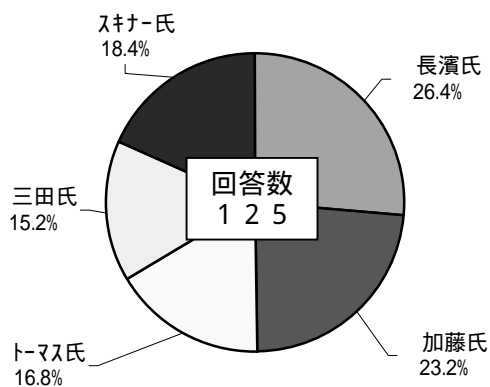


興味深かった講演

Q3-セッション1「海外の取組状況」

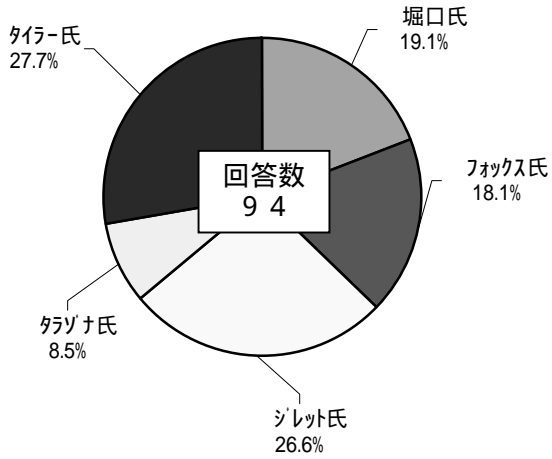


Q3-セッション2「基礎科学」

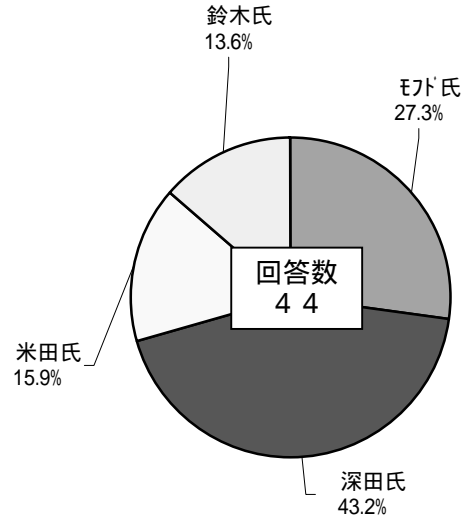


第6回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム アンケート結果(専門家向けプログラム)

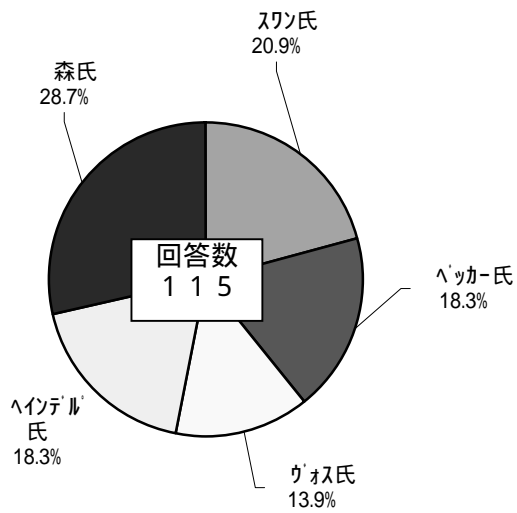
Q3-セッション3「野生生物」



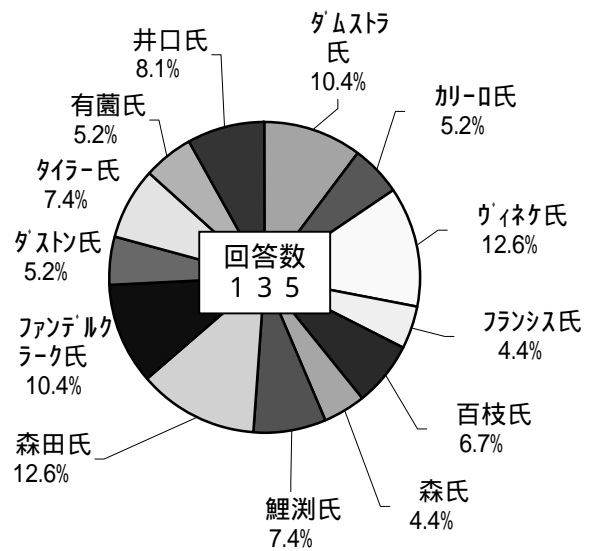
Q3-セッション4「曝露」



Q3-セッション5「人健康影響」

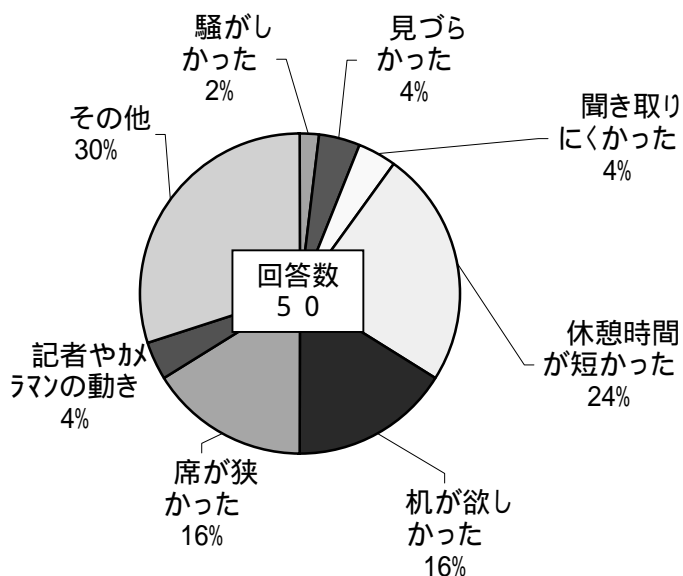


Q3-セッション6「評価基準」

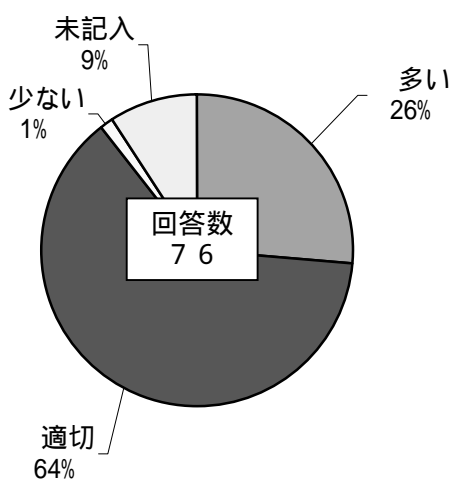


専門家向けプログラム全体について

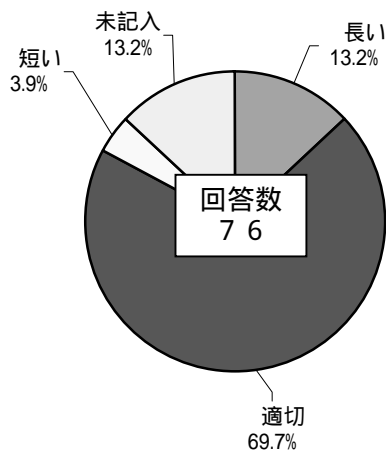
Q6-1) 会場内で気になったこと(複数回答可)



Q6-2) 演者数について

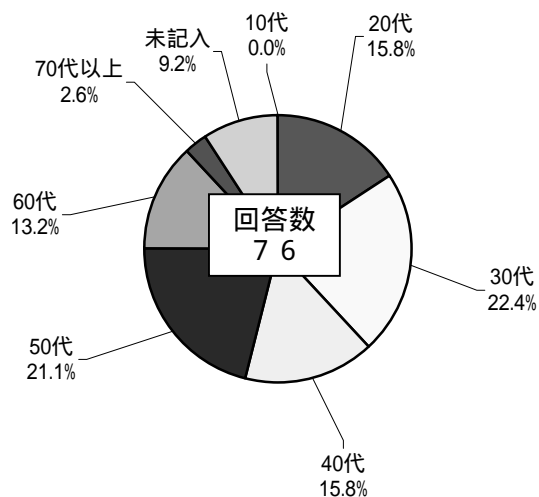


Q6-3) 講演時間について

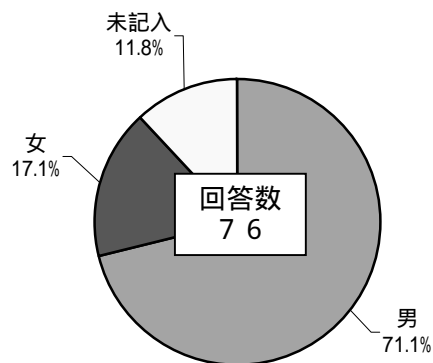


アンケート回答者の属性

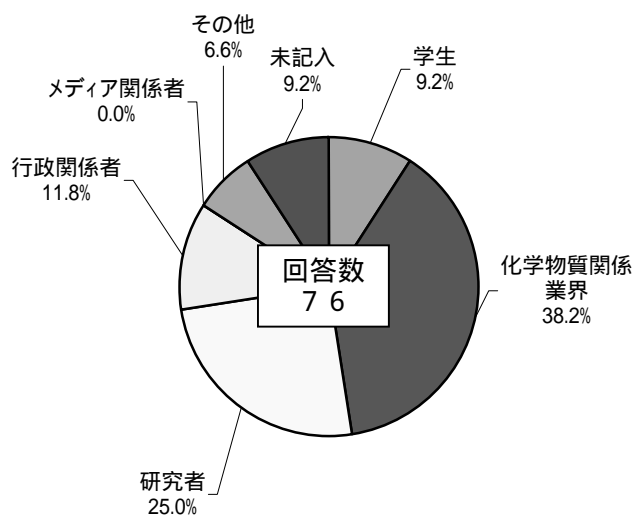
アンケート回答者 属性・年齢



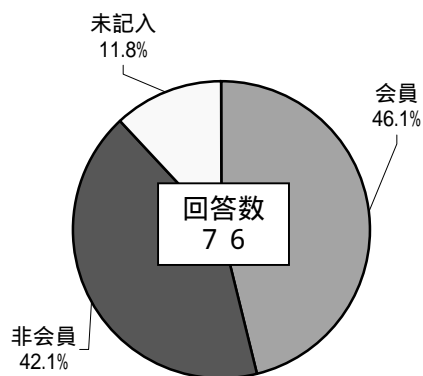
アンケート回答者 属性・性別



アンケート回答者 属性・職業



アンケート回答者 属性・学会



## 自由記載意見・専門家向けプログラム ( Q4 , Q5 , Q6-4 )

### 1 . シンポジウムの運営について

ナイトセッションは見直しを要する ( 13名 )

休憩時間が少ない ( 3名 )

学会より先にシンポを行い、学会の研究発表の中で論点を深める

演者交代時にアブストラクト等の紹介があった方がよい

### 2 . シンポジウムの講演内容について

全体的に欲張らずテーマを絞った方がよい

各セッションで問題を明らかにして議論に持って行ってほしい

毎回講師や座長が同じ人である

招待講師の人数が多すぎる

実例の紹介を増やしてほしい

### 3 . 今後、講演を希望する講師 ( 敬称略 )

河村葉子 ( 食衛研 )( 2名 )

高杉暹 ( 元横浜市教育長 )

菊山栄 ( 早稲田大学教育学部 )

吉永龍起 ( 東京大学 )

戸笈修 ( 東和科学 )

サンプター ( ブルーネル大学 )

マルギン

カールセン

Walter Giger ( EAWAG,Swiss )

Ronald Hites ( Indiana Univ.,U.S )

Haward. A. Bevn ( カルフォルニア大学 )

Stepher Miller ( EAWAG,Swiss )

J.Ashby

F.Von Saal

W.Kelece

Thomas H.Hutchinson

臨床の医者

アジア系の演者

ノーベル化学者



#### 4. 今後、希望するセッション及び演題

野生生物への影響 (4名)

国内の行政の取組について(EDCs 評価のポイント等)(4名)

低用量問題について (3名)

脳神経系への影響 (3名)

人への影響 (3名)

ビスフェノールAについて (3名)

海外の取組について (2名)

試験生物の基礎的な生物学 (2名)

免疫系への影響 (2名)

ノニルフェノールについて (2名)

環境中での動態や微生物分解に関すること (2名)

基礎科学・基礎生物・医学とのつながり(2名)

両生類への影響

P C B 曝露による人体影響評価

曝露経路

農薬等、現在使用中の EDs について

Vg (ビテジエン) について

食品容器添加剤について

リスクアセスメントについて

測定法の簡易化について

予防原則について

精子減少について

原因物質の排除、除去について

分析法の開発について

エンドポイント間の比較(重要性と生物学的意義)

ADHD と五大湖の汚染

中国、インド、シンガポール等の発展途上国での取組について

#### 5. その他

アブストラクトは和文英文両方が必要 (6名)

配付資料として、詳しいデータが欲しい(スライドに使用した資料等)(5名)

ホルモン学会のポスターを最後まで張り続けた方がよい

ポスター展示に対してディスカッションをできるようにするべき